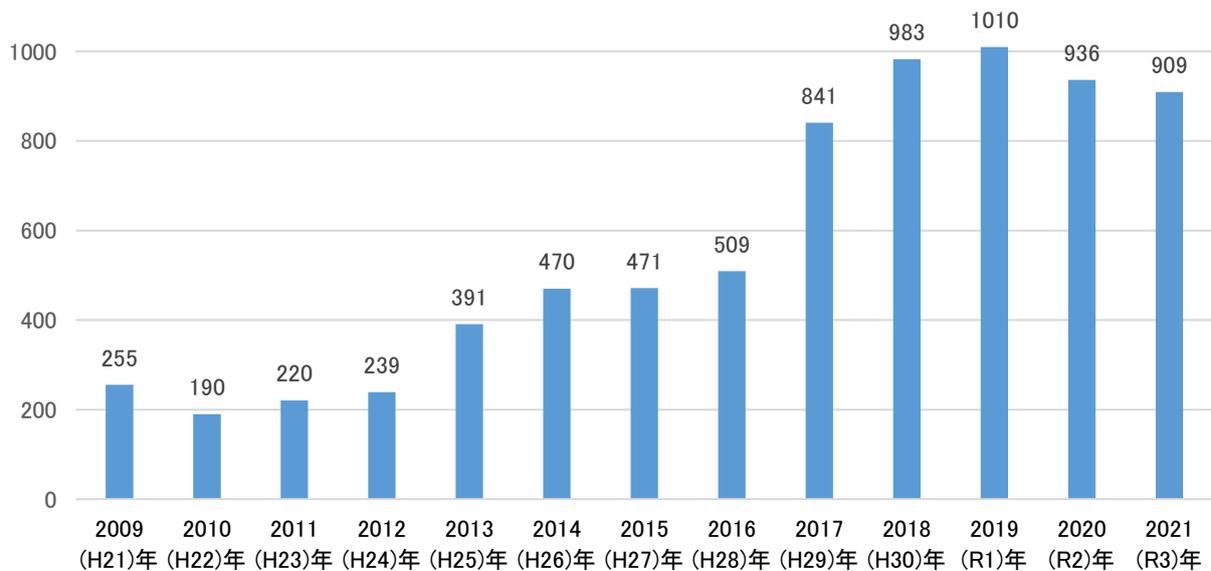


おごおりし げんじょう 小郡市の現状

1 がいこくじんしみん じんこう すい 外国人市民の人口の推移

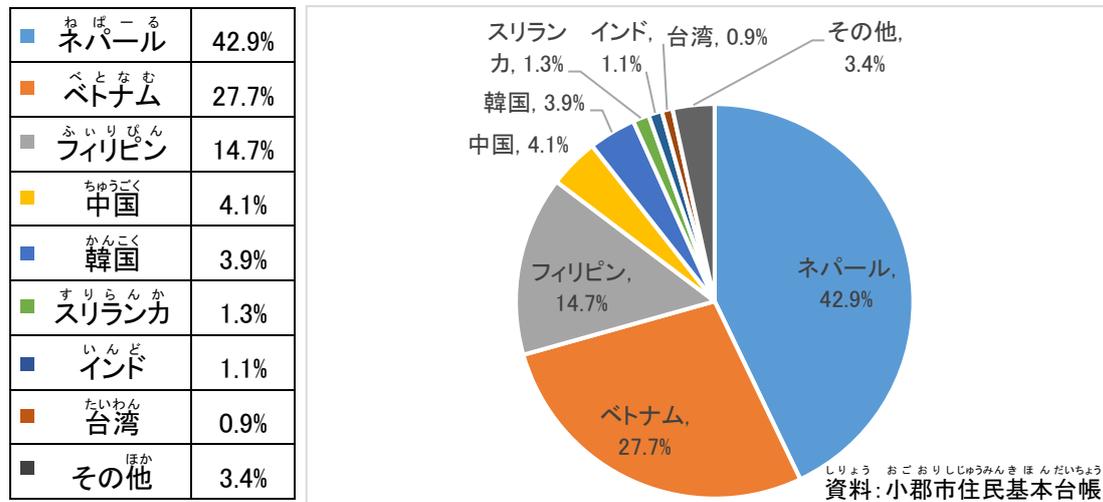
(2017 (平成29) 年まで9月1日時点、2018 (平成30) 年度以降8月1日時点)



資料: 小郡市住民基本台帳

おごおりし がいこくじんしみん、2011 (平成23) 年度から増加傾向が続いており、特に2017 (平成29) 年度に急増しています。2020 (令和2) 年度と2021 (令和3) 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限などで減少していると考えられます。

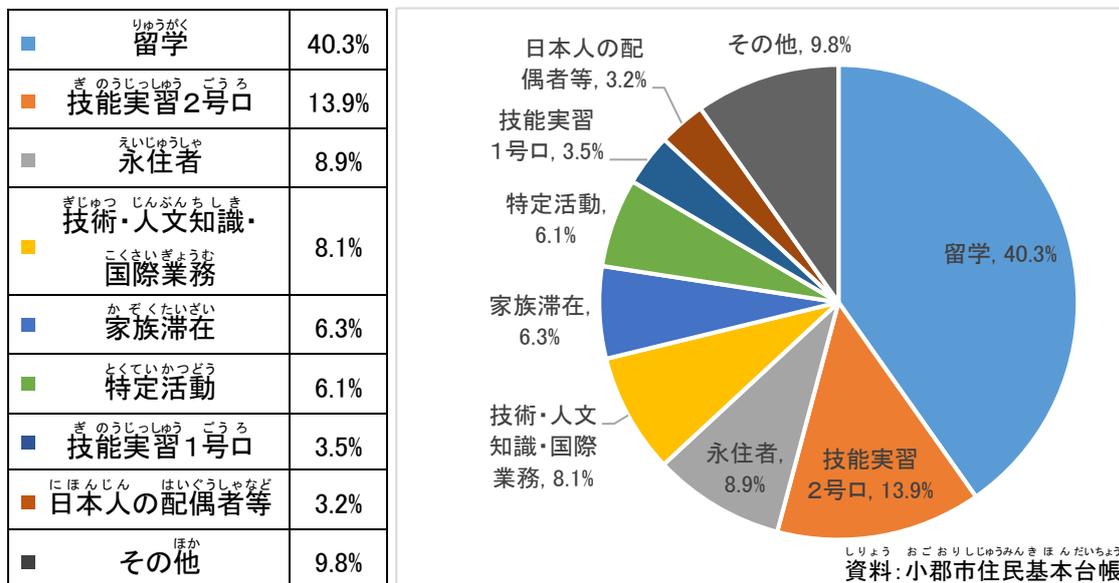
2 外国人市民の出身国比率 (2021 (令和3) 年8月1日時点)



出身国・地域別で見ると、ネパール国籍の外国人がもっとも多く、続いてベトナム、フィリピンが多くなっており、アジアからの来日がほとんどです。小郡市在住の外国人の出身国・地域は、25か国に及びます。

3 外国人市民の在留資格比率 (2021 (令和3) 年8月1日時点)

(在留資格については、35ページを参照)



在留資格別で見ると、留学が約4割を占めています。続いて、技能実習生2号口(団体監視型技能実習生)が多くなっています。留学と技能実習2号口を合わせると外国人市民の約5割を占めることになります。

4 アンケート調査結果の概要 (調査結果は18ページを参照)

① 外国人市民アンケート調査結果の概要

アンケート調査に回答した外国人市民の約8割は、日本語の読み書きや会話ができる、または簡単なものであればできると回答しています。「行政からの文書や情報を簡単な日本語にしてほしい」「日本語や日本文化を学びたい」と考えている外国人市民が多くなることがわかりました。

また、生活の困りごと、不安に思っていることとしては、「病気やけがのこと」「言葉やコミュニケーション」「仕事のこと」の回答が多くなっています。その他にも幅広い分野で困ったり不安に思っている人がいるということがわかりました。

地域のひとと仲良くなりたいと思っている外国人市民も多く、日本人と交流できるイベントや自分の国の文化を紹介する機会を求める回答も多くなっています。

② 日本人市民アンケート調査結果の概要

アンケート調査に回答した日本人市民の約6割は、普段の生活で外国人を見かける、または、何らかの形で関わるがあると回答しています。外国人と関わる場面でもっとも多かったのは、職場や仕事の関係でした。

また、回答者の約6割は、「外国人から文化などを学びたい」「一緒に地域行事に参加したい」など、今後、外国人との交流をしたいと考えていることがわかりました。

日本人と外国人が互いに仲良く生活するために、日本人は「困っている外国人を助ける」「外国人が地域行事に参加しやすい環境をつくる」「外国の文化などに理解を深める」ことが必要という回答が多くなっています。

③ 区長アンケート調査結果の概要

アンケート調査に回答した区長の約7割は、地域に外国人が住んでいると回答しています。地域に住む外国人との関わりの中で困っていることや外国人に望むことを尋ねる設問では、ごみの出し方など日本の生活ルールに関する回答が多くなっています。一方で、地域に外国人が住んでいて良かったこととして、地域のイベントや清掃などの地域活動への参加が増えたという回答もありました。

日本人と外国人が安心して生活するために、外国人が地域行事に参加しやすい環境づくりや相談しやすい体制づくりを求める回答が多くなっています。